

膀胱がん治療薬の 耐性の仕組み解明

福島医大のチーム

福島医大泌尿器科学講座
の眞壁俊太助手、小島祥敬
教授、生化学講座の西田満
教授らの研究チームは、膀
胱がんの治療薬「エルダフ
イチニブ」を投与する過程
で、薬が効かなくなる「薬

剤耐性」が起こる仕組みを
解明した。

膀胱がんには国内で年間
約2万人が罹患する。研究
チームは再発や転移が起
きやすい難治性の筋層浸
潤性膀胱がんの治療で、エ
ルダフイチニブが有効か
を解析した。投与初期には
がん細胞の細胞死が誘導
された一方、治療を継続す
ると細胞の増殖などに関わ

る「MET（メット）遺伝
子」の増幅が生じたりし、
薬剤耐性が起こることが分
かった。

こうした結果を受け、細
胞や動物を使った実証実
験でMET阻害薬「カプマ
チニブ」をエルダフイチ
ニブと併用して投与した結
果、MET経路の異常活
性化を抑え、エルダフイチ
ニブが効かなくなる現象

を抑える効果があると分か
った。

研究成果はエルダフイチ
ニブの効果を持続させ、膀
胱がんの新たな治療戦略に
つながる可能性があるとし
ている。研究に関する論文
は英学術誌「セル デス&
ディジーズ」に掲載された。